

令和6年度山口県収益性向上検討ワーキンググループ会議

『気づく』・『考動する』により

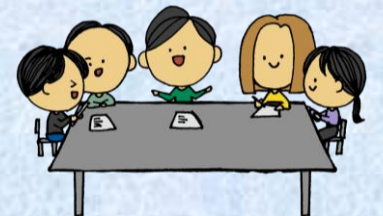
就労支援および工賃向上の**礎**づくり

多機能型通所施設鳴滝園

サービス管理責任者:松田佳昭

1.「収益性向上検討ワーキンググループ会議」

- 令和6年度の「収益性向上検討ワーキンググループ会議」の対象事業所として、「鳴滝園でやってみませんか？」のお話をいただく
- 「第三者の目」による自事業所の評価については興味があったこともあり、参画させていただくことを決定
- 前年度および前々年度とは趣がまったく異なる取組みに戸惑いを感じながら、鳴滝園における課題の整理に着手



2. 鳴滝園の現状報告

2-1 鳴滝園における課題の報告

- ① **作業数が多い & 分散**により、**職員配置が非効率**
- ② 作業室における**動線の悪さ**
- ③ **利用者の多能工化**が進まない

2. 鳴滝園の現状報告

2-2 報告に対する委員さんからのご意見

- 利用者が従事できることを整理する必要がある
- 利用者の能力をきちんと知る必要がある
- 利用者に伝わりやすい「工賃設定」(＝実績に対する評価)

2-3 今後の方向性

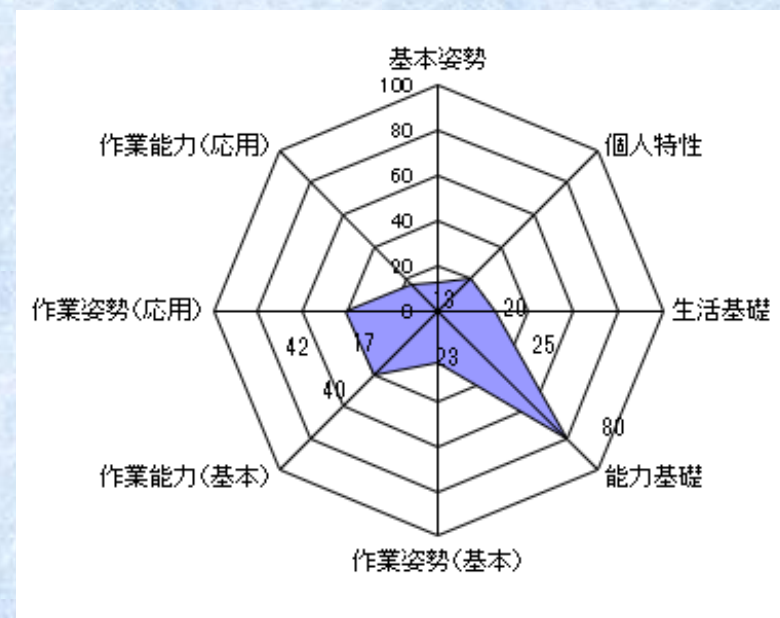
- 利用者の**就労アセスメント**を実施
- すべての作業における**工程分析**を実施
- 各作業(スワンバーカリー、キララ工房)の原価を確認

3. 取組み その1

3-1 利用者の就労アセスメント

以前、山口市就労支援部会で作成した「レーダーチャート」を活用して、利用者全員のレーダーチャートを作成

「基本姿勢」、「個人特性」、「生活基礎」、「能力基礎」、「作業姿勢(基本/応用)」、「作業能力(基本/応用)」の8項目について評価、結果をレーダーチャート化



3. 取組み その1

3-2 作業の工程分析

就労アセスメントと同じツールを使って、各作業の工程ごとに求められる能力をレーダーチャートにより視覚化

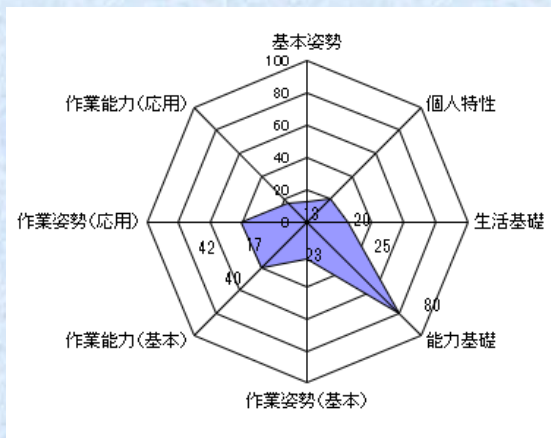
段階	工程	要素作業	評価項目（任せられる／任せられない）	必要となる能力
準備	○	袋にシール貼り	台紙からシールをきれいに剥き取ることができる	
			シールの上下が判別できる	
			決められた位置に貼付できる	
	△	テラスから野菜の入った段ボールを運び入れる	段ボールを台車に積み上げることができる	
			指示された場所に台車から段ボールを下ろすことができる	
	→	作業台まで運ぶ	段ボールに記載される品名やサイズ（M・L）を確認できる	
			作業スペースに、作業性を考えて椅子を配置することができる	
			段ボールを椅子座面に載せることができる	
	△	準備（作業台にシート、はかり、袋、ガチャリンコ、コンテナ）	作業台にブルーシートを敷くことができる	
			はかりを正しく設置できる（平らな場所、他のものに触れていない）	
			品名（野菜の種類や産地など）を確認して、袋を準備できる	
			ガチャリンコのテープ残量をチェックできる（または交換できる）	
			完成品を入れるコンテナを準備できる	

3. 取組み その1

3-3 ジョブマッチングの体制づくり

両者のレーダーチャートを重ね合わせることで、マッチングを実施
利用者の職域を広げていくための評価ツールを作成

【利用者の作業能力】



【作業に必要となる能力】



○作業能力的には、この工程
を任せることができる力を
持っている

○繰り返しによる定着化・習
慣化が課題

4. 作業場の見学 & 意見交換

4-1 作業現場の見学

スワンバーカリー(パン製造)



作業室(常時、3～4種類の請負作業)



キララ菓子工房(菓子製造)



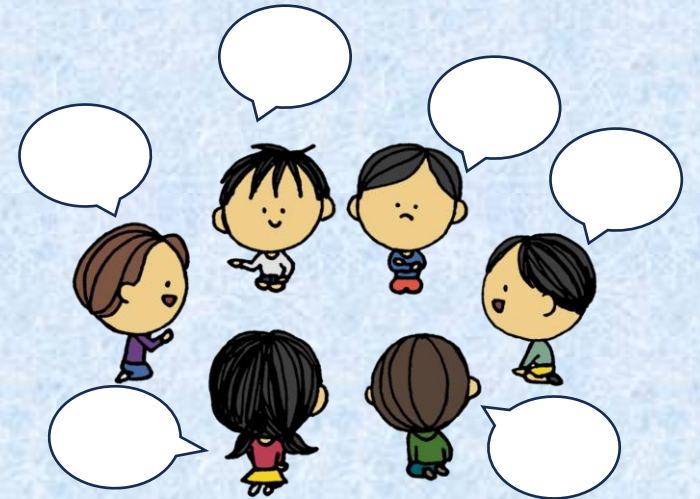
地域交流ホーム(衛生面の要配慮のため、別空間)



4. 作業場の見学 & 意見交換

4-2 意見交換

- 法人としての方針・事業展開について、職員間共有
- 作業室の整理とレイアウト変更
- 作業の質向上
- 利用者の能力評価と向上の取組
- 作業の選択と集中
- 作業の「柱」決め など

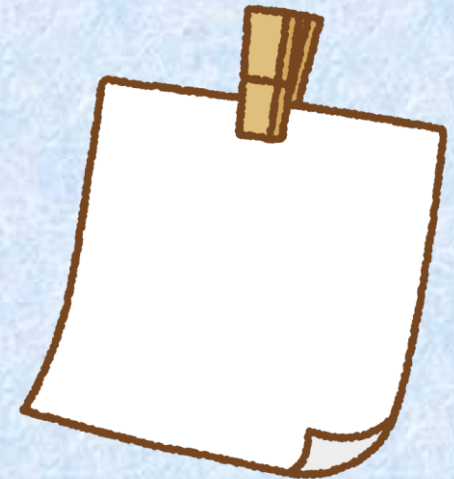
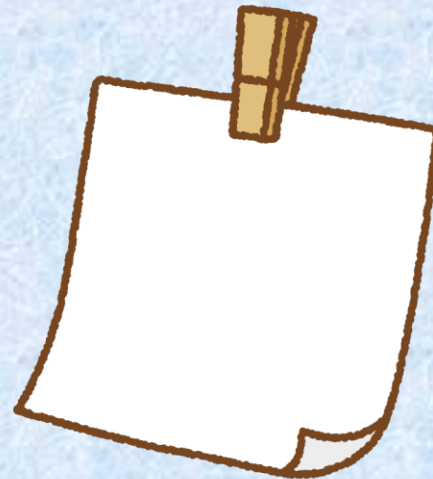
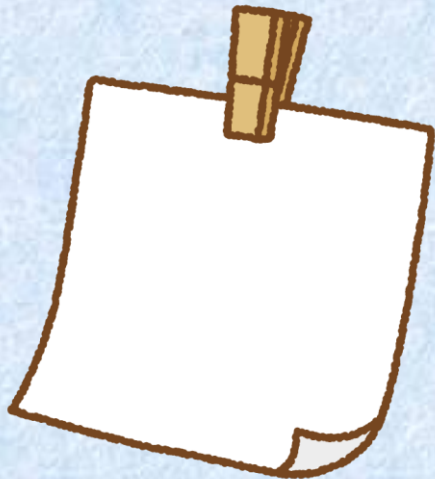


5. 取組み その2

5-1 取り組むべき課題の仕分け

意見交換により出てきた課題について、3つに仕分け

「すぐやる！！」「計画的(長期的)にやる！」「できない…」



5. 取組み その2

『すぐやる！！』



①作業室内が雑多

⇒作業科目ごとに整理、エリア分け

②利用者の作業能力

⇒就労アセスメント(レーダーチャート)の活用

③作業の「質向上(&質向上に対する意識向上)」

④作業場所が散在

⇒施設外就労への移行を含めて、移動あるいは集約

⑤鳴滝園は、どのような方針？

⇒「法人の基本理念」に立ち返る

5. 取組み その3

『すぐやる！！』の実践結果

①作業室内が雑多

- ・不要な棚を撤去
- ・「動線」、「効率」を考えてモノの配置を決める

感想

- 煩雑さが原因のミスが減少した
- 空間が広がって、動線がすっきりしてきた

5. 取組み その3

②利用者の作業能力

- ・レーダーチャートを活用したジョブマッチング
- ・職域拡大にむけた作業チャレンジ

感想

- 利用者の作業能力を可視化することができ、強みと弱みを再確認できた
- 評価ツールとしては、使いにくかった…
- チャレンジによる職域拡大 < 現状維持(“変える”ことに消極的…)

5. 取組み その3

③作業の「質向上(&質向上に対する意識向上)」

- ・野菜の袋詰め作業において、野菜への衝撃を抑えるため作業台に緩衝材(エアークラップ)を設置
- ・ボルト作業において、投げ入れ防止のフタ設置

感想

- 「商品」を取り扱っているという意識が向上してきた
- 「丁寧さ」に対する意識の向上
- 利用者に対する言葉かけが変わってきた

5. 取組み その3

④作業場所が散在

- ・作業室とは異なる場所での作業→施設外就労の可否を委託先に相談

感想

- 施設外就労への移行はできなかったが、作業の効率化にむけて「考える」よい機会になった
- 衛生面に対するレベルが異なる作業を同居させる場合、配慮が必要な点などについて「考える」ことができた

5. 取組み その3

⑤鳴滝園は、どのような方針？

- ・法人の「基本理念」を調べる

感想

- 「基本理念」に触れる機会は、これまでほとんどなかった
- 基本理念に対する職員個々の捉え方はさまざま(バラバラ)
- 職員は、支援員？作業員？といった基本的な理解についても共通認識が得られていないのが現状…

6. 作業場の見学(取組み後)

6-1 作業場の見学

「取組み前」と「取組み後」の変化を中心に、作業場の見学を実施

6-2 委員さんからのご意見

- 整理整頓により、作業室が全体的に明るくなった
- さらなる作業効率化にむけた、細部にわたるアドバイス
- 利用者の「作業意欲向上」に繋がる仕組み

など

7. まとめ

- 収益性向上検討ワーキンググループの取組みを通じて、職員一人ひとりが『考える』を体験することができた。
- 「考える」を行動によって「形にする」、見直しによって「形をさらによくする」という活動を続けていくことの大切さを学ぶことができた。
- 主役は、「職員ではなく利用者」。利用者が、意欲的、段階的、自発的に活躍できる体制づくりが必要。
- 委託先との信頼関係。信用・信頼を得るためには、「商品」に対する意識向上が必要。

7. まとめ

このたびの取組みを通じて、就労支援の礎および工賃向上の礎を築いていくためのスタートラインに立つことができた。

気づきを「考える」につなげてスタートを切ること、考えるを「行動する」につなげる、行動するを「さらによくする」につなげて歩みを止めないことの大切さを学ぶことができた。

利用者さんの「やりがい」、「楽しみ」、「満足感」というゴールを職員全体が描いて、そのゴールを目指して今後も職員全体で取組みを進めていきたい。

以上